

ジオパーク実現に向けた新エンジンの構築 四国におけるサステナブル・ジオ・ツーリズムの可能性 -

Construction of a New Engine for Actualizing Geopark Potentiality of Sustainable Geotourism in Shikoku Island

永野 正展 [1]

masanobu nagano[1]

[1] 相愛

[1] Soai Co.,Ltd

1 はじめに

20世紀後半の工業化社会から取り残されたといえる四国の中山間地域は、人口減少や超高齢化社会の影響を受け、地域行政や地域経済に深刻なダメージを与えているばかりでなく、次代を担う子供たちの教育にもその影響は及んでいる。古来より受け継がれてきた持続可能なライフスタイルや貴重な自然遺産、文化遺産などの維持も風前の灯状態にある。20世紀後半の社会トレンドにおける環境適応は困難であったかもしれないが、資源・エネルギー・環境などの分野に多くの問題を有した今日の人類社会には、新たなライフスタイルの構築が望まれている。ジオパークという概念の実現は、地域社会再構築の可能性を有しているばかりでなく、地域・国家を超えた未来学習の場、言い換えれば価値創造の場と捉えることができる。

2 ジオパークを構成する概念

ユネスコが認証するジオパークの概念は、地質学的重要性だけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値がある地域 持続可能な社会・経済を促進するための計画を有する。地質遺産を保存・改善する方法を示し、地質科学や環境問題の教育に資する。公共団体・地域社会ならびに民間による共同行動計画を持つ。などが示されている。

3 ジオパークという新エンジン

多くの中山間地域の現状は急速に変動する社会・経済システムのなかで、明確な目標を構築できないまま日々の対処に追われている状態にある。言い換えればこれまで地域を支えてきたエンジンそのものが変化する環境に適応できなくなっている状態にある。わが国では地方に対する新しいエンジンの提案が明確に為されていない今、ジオパークを構成する概念が新しいエンジンになりうる可能性を有していると考えられる。

図はジオパークを構成する概要である。更にそれぞれの領域は個々の要素から成り立っている。これらの要素における研究成果や実績、知見の蓄積は、現在相当なものとなっており、更に細分化と専門化が進む傾向にある。そして、細分化されすぎのあまり、近接する要素との融合や結合が難しい状況となっている。まずは、それらの詳細な調査を行うとともに、持続可能な地域のあるべき姿像を再構築する必要がある。そして、そのあるべき姿に照らしあわせ、領域の各要素であるシーズを組み合わせるにより、これまでの学問領域を超えた新たな有機的結合は生み出されるのである。これこそが、新しい時代を牽引するエンジンであり、まさに価値創造プロセスのはじまりと言えるのではないだろうか。

四国では現在、サステナブル・ツーリズムを想定することにより、新たな道を切り開こうとしている。今後は、新しいエンジンがもたらす効果やシステムの研究、ならびに必要な燃料に関する検討が課題となっている。

4 結び

地域の自然豊かな資源と古来から伝承されてきた貴重な資産を未来に継承するには、内部化される多大なコスト負担を、地域で支える持続可能なシステムが必要である。また、その地域を動かして行く新しいエンジンの出現が必要である。ジオパークそのものをエンジンとして、新しい地域創造への道が可能と考えられる。

わが国における前例がない今、価値創造への自由度は惑星地球の有している原理原則内において保障されていると考える。

ジオパークを構成する領域の概要

